

災害対応eラーニング

今後のコンテンツ周知・広報・公開の方針

第1回企画検討会での主な指摘事項

- 発災時に内閣府ホームページ等から災害対応eラーニングにアクセスできるようにすることや、応援職員派遣部局（人事部局等）との連携が効果的ではないか。
- 災害対応eラーニングがどの都道府県や市町村からアクセスされているのかを明らかにし、どこまで周知されているのかを見える化してはどうか。

➡ 【決定事項】

今後、アクセスは制限しない。また、その旨広く周知を図る。

➡ 【決定事項】

eラーニングの視聴状況を把握・分析するために、原則として年1回、都道府県・市区町村にアンケートを実施する。

能力評価

1. ワーキンググループの実施概要
2. テスト見直しの試行事例

1. ワーキンググループの実施概要

- 現状のテストの実施状況、有明の丘研修におけるリニューアルの取組み等を共有し、今後のリニューアルと合わせたテストの考え方等を協議いただいた。
- その結果「**テストの意義や目的の明確化**」、「**テストの目的に応じたテスト形式の設定**」、「**クオリティコントロールの仕組み・体制**」等について意見をいただいた。

専門家からの意見等

<主な意見>

- テストの位置づけがあいまい。テストの意義や目的などを明らかにし、検討会で合意を得ていく必要があるのではないか。
- テストの目的に応じて○×形式、多肢選択形式以外のテスト形式があってもよいのではないか。
- クオリティコントロールの仕組み・体制が必要
- LMSのデザイン・機能・構造も含めて今後見直しが必要

木村委員
奈良委員

<今後の進め方>

- 本年度リニューアルを進めるコースを対象に、テストの見直しを進める。有明の丘研修(第1期)で一部試行を目指す。
- まずは被災者支援コースの単元「多様な主体の被災者支援」を対象に見直しを試行し、第2回企画検討会で試行状況を報告する。

2. テスト見直しの試行事例

災害救助法に基づく避難所運営と被災者支援

参考資料3-3

単元1	コース紹介：被災者支援	5:23
単元2	総論：被災者支援 1.全体像、2.被災者支援の全体像、3.避難所の役割、4.被災者の移動、5.要配慮者支援、6.生活再建の全体像	49:29
単元3	法律 災害救助法	40:51
単元4	避難生活支援業務の標準化 一般避難所のライフサイクル 1.避難所の基本的な理解、2.運営体制の確立、3.避難所の運営（発災後）、4.コースへの対応・解消	53:41
単元5	福祉避難所の支援業務 福祉避難所の支援 1.役割、2.必要とされる理由、3.概要、4.課題と（新）ガイドライン ガイドラインを強調	47:34
単元6	事例 避難所の運営の実際 最近の事例 新規	事例 避難生活支援業務の標準化 避難所のマネジメント 新規
	事例 福祉避難所の運営の実際 最近の事例 新規	事例 複数避難所のマネジメントの実際 最近の事例 新規
単元7	事例 福祉避難所の運営の実際 最近の事例 新規	事例 福祉避難所の支援業務 福祉避難所のマネジメント 将来
		事例 複数福祉避難所のマネジメントの実際 最近の事例 将来
単元8	医療の支援 医療による被災者支援 1.DMAT支援、2.災害医療の特殊性、3.多数の傷病者対応、4.災害関連死の特徴、5.肺炎の対応	事例 55:38
単元9	避難生活の支援業務 保健師による避難生活の支援 1.避難生活、2.健康管理、3.在宅避難、4.医療保健福祉体制	43:30
単元10	医療の支援 多様な主体による被災者支援 1-1.広域避難対応とは、1-2.大規模地震災害における広域避難、 1-3.大規模地震災害における広域避難支援、1-4.広域避難者の支援に係る課題 2-1.帰宅困難者対応、2-2.ご遺体対応	76:41
単元11	個別避難計画 個別避難計画 1.避難行動要支援者の避難行動支援 2-1.脆弱化した社会と正常化の偏見、2-2.近年の災害と高齢者、障がい者等の被害 2-1.避難関連計画と個別避難計画作成のステップ、2-4.福祉避難所ガイドライン改定 2-5.個別避難計画と福祉BCP、地区防災計画の関係 3.個別避難計画の制度概要・個別避難計画の策定優先度・手順	134:47

実務担当

一般管理

被災者生活再建支援法に基づく生活再建支援業務

単元1	法律 被災者生活再建支援法	11:00
単元2	生活再建支援業務の標準化 生活再建支援業務 1.全体像、2.被害認定調査の概要、3.調査の課題、4.罹災証明書発行、5.発行の実際、 6.被災者台帳の構築、7.平時の取り組み	80:24
単元3	事例 生活再建支援業務の実際 最近の事例 新規	事例 生活再建支援業務の標準化 全体・調査・発行・台帳管理 マネジメント 次回

実務担当

一般管理

動画は全部で6ファイル
それぞれに学習目標が存在
（「6.ふりかえりは除く」）

- ⑤-6-1_医療による被災者支援 DMATによる支援_新潟大学_高橋昌講師.mp4
- ⑤-6-2_医療による被災者支援 災害医療の特殊性_新潟大学_高橋昌講師.mp4
- ⑤-6-3_医療による被災者支援 災害時に多数の傷病者対応に必要な機能_新潟大学_高橋昌講師.mp4
- ⑤-6-4_医療による被災者支援 災害関連死の特徴_新潟大学_高橋昌講師.mp4
- ⑤-6-5_医療による被災者支援 災害時高齢者の肺炎発生における原因と対策_新潟大学_高橋昌講師.mp4
- ⑤-6-6_医療による被災者支援 ふりかえり_新潟大学_高橋昌講師.mp4

1. DMATによる支援 (11'55")
2. 災害医療の特殊性 (6'50")
3. 災害時に多数の傷病者対応に必要な機能(11'56")
4. 災害関連死の特徴 (3'28")
5. 災害時高齢者の肺炎発生における原因と対策(11'47")
6. ふりかえり (15")

現時点は全部で5問

単元名	問 N	設問文	正解	解説	1期				2期			
					実務担当		一般管理		実務担当		一般管理	
					確認 テスト 正答率	最終 テスト 正答率	確認 テスト 正答率	最終 テスト 正答率	確認 テスト 正答率	最終 テスト 正答率	確認 テスト 正答率	最終 テスト 正答率
6	医療による被災者支援	Q1	○	阪神淡路大震災を契機に、情報共有のためのシステム整備による情報管理、災害拠点病院の指定、DMATの活動、ヘリ搬送・広域医療搬送という災害医療対策が構築された。	93.5%		100.0%		100.0%		96.6%	
		Q2	×	大規模地震などの災害時は、被災地の地元の医療機関も被災するため、災害発生直後から1週間程度は外部からの支援が不可欠となる。但し、災害発生から2～3週間以降は、被災地の医療体制が回復するため、外部からの支援は必要なくなる。	96.8%		100.0%		100.0%		96.6%	
		Q3	×	災害急性期をDMATなどの医療チームによる支援が行われれば、医療体制は自然に行われていく。	87.1%		87.2%		96.4%		93.1%	
		Q4	×	病院の入院患者に限らず、外来通院患者に対する継続的な投薬や診療体制の構築は、医療機関の負担は変わらないため、災害対応が落ちているからでよい。	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		Q5	○	災害時の適切な現場支援のためには、情報収集と調整能力が重要であり、被災地外からこのような活動に関する教育を受けた人材を受け入れて支援をすることは有用である。	96.8%		100.0%		96.4%		100.0%	

1. DMATによる支援 (11'55")
2. 災害医療の特殊性 (6'50")
3. 災害時に多数の傷病者対応に必要な機能(11'56")
4. 災害関連死の特徴 (3'28")
5. 災害時高齢者の肺炎発生における原因と対策(11'47")
6. ふりかえり (15")

動画と問の対応関係の偏りが大きい（動画1・2に集中）

問1. 阪神淡路大震災を契機に、情報共有のためのシステム整備による情報管理、災害拠点病院の指定、DMATの活動、ヘリ搬送・広域医療搬送という災害医療対策が構築された。【動画1. DMATによる支援】

問2. 大規模地震などの災害時は、被災地の地元の医療機関も被災するため、災害発生直後から1週間程度は外部からの支援が不可欠となる。但し、災害発生から2～3週間以降は、被災地の医療体制が回復するため、外部からの支援は必要なくなる。【動画2. 災害医療の特殊性】

問3. 災害急性期をDMATなどの医療チームによる支援が行われれば、医療体制は自然に行われていく。【動画2. 災害医療の特殊性？】

問4. 病院の入院患者に限らず、外来通院患者に対する継続的な投薬や診療体制の構築は、医療機関の負担は変わらないため、災害対応が落ち着いてからでよい。【動画2. 災害医療の特殊性？】

問5. 災害時の適切な現場支援のためには、情報収集と調整能力が重要であり、被災地外からこのような活動に関する教育を受けた人材を受け入れて支援をすることは有用である。【動画1. DMATによる支援】

1. DMATによる支援 (11'55")
2. 災害医療の特殊性 (6'50")
3. 災害時に多数の傷病者対応に必要な機能(11'56")
4. 災害関連死の特徴 (3'28")
5. 災害時高齢者の肺炎発生における原因と対策(11'47")
6. ふりかえり (15")

【問の提案】なるべく各動画の学習目標から問を作成する（1）

1. DMATによる支援 (11'55'')

問1. DMATの特徴として、適切ではない内容を1つ選びなさい。

1. 事前計画・都道府県との協定に基づく活動で、迅速な出動が可能である。
2. 特別な教育を受けなくても、医療関係者ならば誰でも参加できる制度である。
3. 消防・警察・自衛隊・海保等との関係機関との連携・調整ができる。

解答：2

解説：災害医療という特殊な医療に熟知するため、標準的な教育を受けた個人の組織的な活動である。

問2. DMATの活動として、適切な内容を1つ選びなさい。

1. 救護所・救助現場における現場活動に特化している。
2. 支援の少ない一般病院を最優先で支援する。
3. 避難所や孤立集落における健康被害の低減を活動目的の1つにしている。

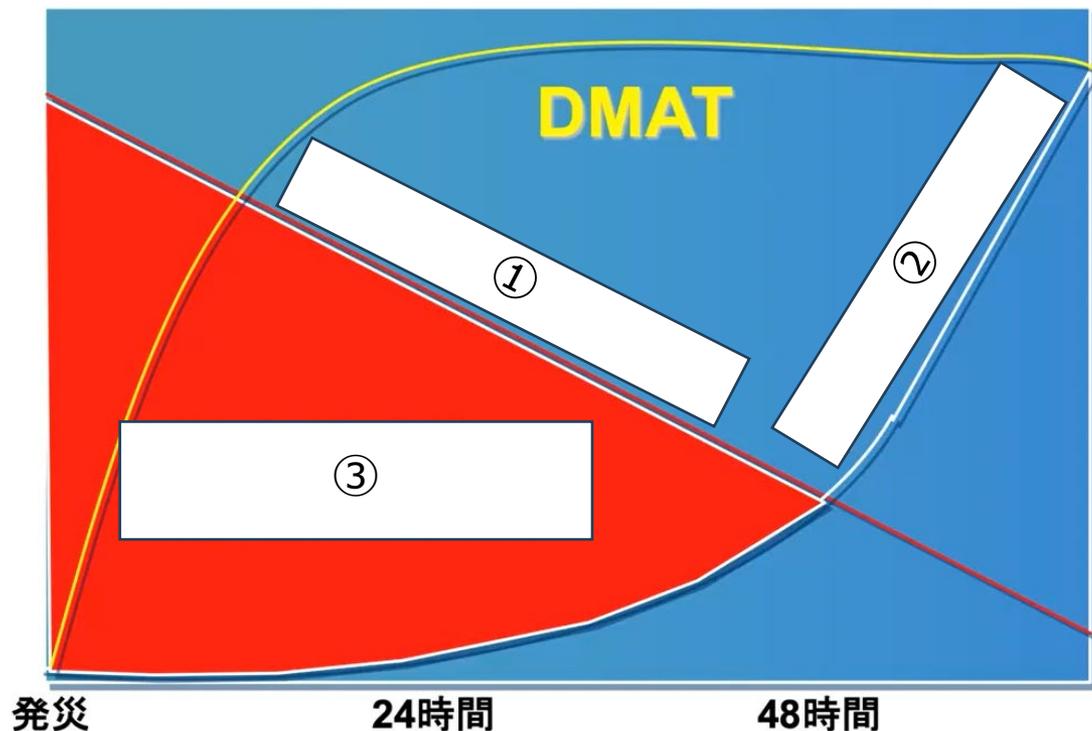
解答：3

解説：現場の救急医療活動だけでなく、避難所・救護所活動、公衆衛生活動など平時の医療体制に戻るまで長期的に支援していくのが現在のDMATの活動である。

【問の提案】なるべく各動画の学習目標から問を作成する（1）

1. DMATによる支援 (11'55'')

問1. DMATの意義についてまとめられた下記の概念図について、①～③に当てはまるものをそれぞれ選びなさい。（3つの用語を提示して選ばせる）



解答：①救急医療のニーズ、②医療救護班の到着、③Preventable Death

解説：災害後、医療救護班が被災地に到着するまでに、救急医療のニーズに医療が追いつかないことからPreventable Death（避けられない災害死）が発生する。それを解消するためにいち早く機動力をもって災害現場に人を派遣する制度としてDMATがつけられた。

2. 災害医療の特殊性 (6'50'')

問1. 災害医療の特徴として、適切な内容を1つ選びなさい。

1. 災害医療は、医療のニーズに特化した活動であり、医療・保健・福祉などの多職種連携の必要性は低い。
2. 災害発生後2～3週間以降は、被災地の医療体制が回復するため、外部からの支援は必要なくなる。
3. 災害医療には、長期的な観点から見た持病の悪化や新たな疾病に対する保健活動も含まれる。

解答：3

解説：災害医療は、医療のニーズだけでなく、長期的な保健のニーズにも目を向けて、持病を悪化させない新たな疾病を生まないという継続的な保健活動も必要である。

3. 災害時に多数の傷病者対応に必要な機能(11'56")

問1. 災害時に多数の傷病者対応に必要な機能として挙げられたCSCAについて、適切ではない内容を1つ選びなさい。

1. 安全（Safety）を確保するためには、自分（Self）・現場（Scene）・生存者（Survivor）の3つの安全に配慮することが重要である。
2. 情報伝達（Communication）について、災害現場では伝達手段がないため、そもそも情報に頼らず活動できるように訓練を徹底する必要がある。
3. 評価（Assessment）について、災害現場は情報不足で評価ができないため、現場に行く前に関係機関と連携して精度の高い評価を行うことが重要である。

解答：1

解説：単に熱意があるというだけで現場活動をしてはいけない。自分（Self）・現場（Scene）・生存者（Survivor）の安全を守るために、それにふさわしい知識と装備が不可欠である。

4. 災害関連死の特徴（3'28"）

問1. 災害関連死の特徴として、適切ではない内容を1つ選びなさい。

1. 肺炎などの呼吸器疾患、循環器疾患、脳血管疾患が多い。
2. 年代別で見ると高齢者に多い。
3. 発災から2週間以内にほとんどが亡くなっている。

解答：3

解説：阪神・淡路大震災では、2日後から増え続け、発災後2週間で40%、2ヶ月で80%、2ヶ月半で85%以上が亡くなっている。

問2. 災害関連死の認定例として、適切ではない内容を1つ選びなさい。

1. 台風襲来時の強風による飛来物が当たったことによる死
2. 地震による疲労が原因の事故死
3. 仮設住宅で孤独感にさいなまれ、過度の飲酒による肝硬変

解答：1

解説：台風による強風が直接的な原因となり、飛来物が人に当たって致命的な怪我を負ったため直接死とみなされます。

5. 災害時高齢者の肺炎発生における原因と対策(11'47")

問1. RCA（根本原因分析）の説明として、適切な内容を1つ選びなさい。

1. 最も影響力の大きい1つの原因を特定し、それに集中して対応することで効果的に問題を解決する手法である。
2. 問題の原因について「なぜ」「なぜ」と掘り下げて、より根本原因に近いところで対策を立てる手法である。
3. 将来発生しうる問題を予測アルゴリズム図を用いて見える化し、その予測に基づいて根本から対策を講じる手法である。

解答：2

解説：問題の原因について「なぜ」「なぜ」と階層を掘り下げていき、より根本原因に近いところを見つけて再発防止対策を立てる手法である

① 試行事例を踏まえたテストの見直しの方向性